特別
へ13
1181
3

特別
へ13
1181
3

妙々車

第五集上冊

柳下亭著述

梅蝶樓圖畫

紅英堂鐫主

聞說安阿弥ハ作佛ハ貧を守ると恵心僧都の作佛ハ富を守ると云ふ人貧ければ世を厭浄土を願の志深くるべしと安阿弥ハ思ひ恵心僧都ハ是ハ反しく人富貴なる時ハ活業ハ苦脳なく佛道執行ハ便あるべしと思ばかりとぞ されば此書の浦作渚等ハ観音大士の像を身ハ貧ゟ至ぐるも豈生涯に斯く果なん薩埵の應験空しく彼善男子善女人ハ授玉つる福壽海無量の方便妙智力めうく車の末奈となるべく南海普陀洛山作意の山ハ遥なる後の巻ハ説を見て察知さまへうく

安政丁巳端月　柳下亭種員

望月千之
中踊
愛染堂の庵主願西

俳諧名取川
延宝六年刊行
月岡の處女小雪

寒郷相撲
布子山綿八
賤婦門田
農夫畔六

俳諧三部抄　延宝五年刊行

明るや七騎と
なりて木芍踊

三輪
好道

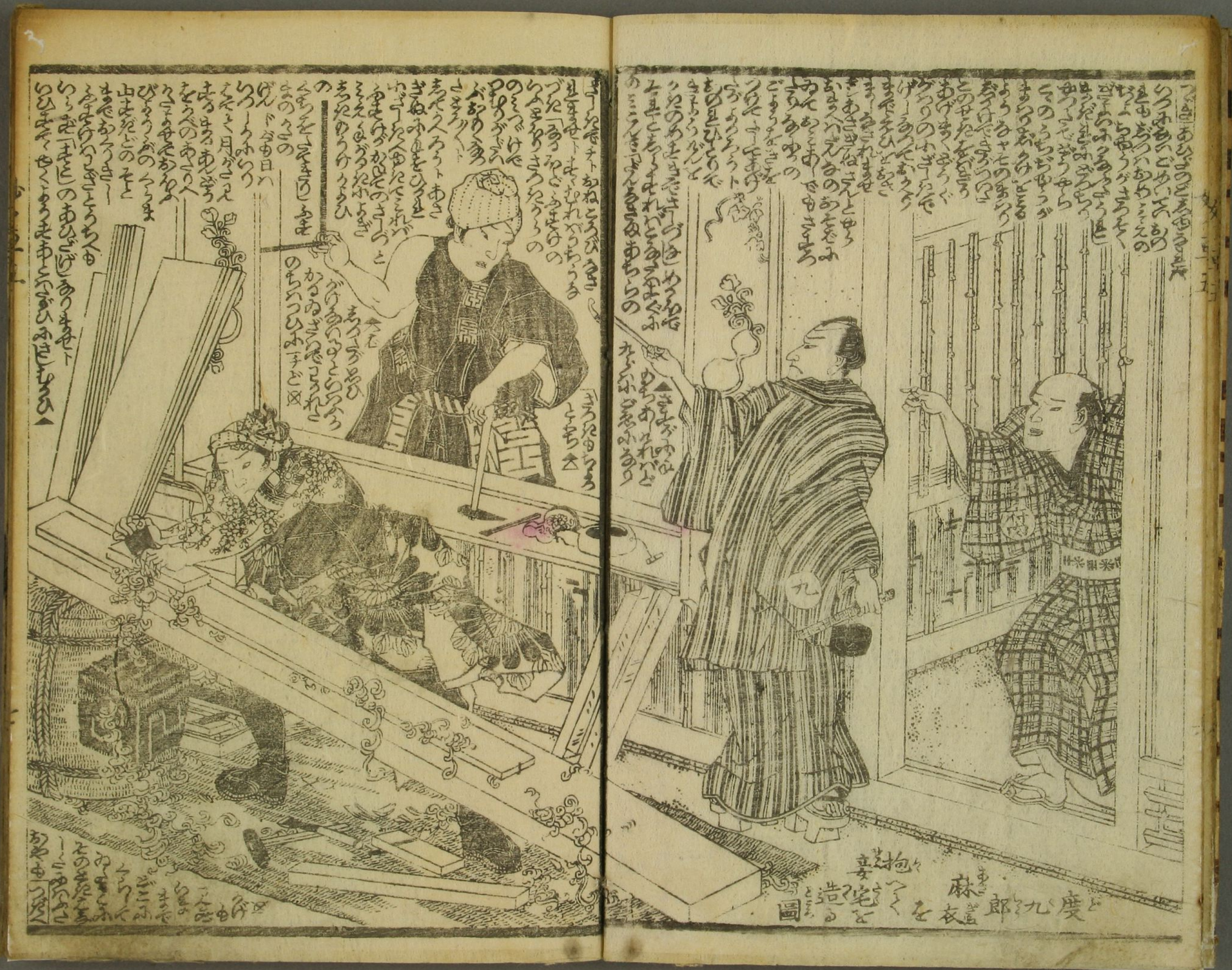
花垣奴隷早助

曲亭國貞

花垣重三郎

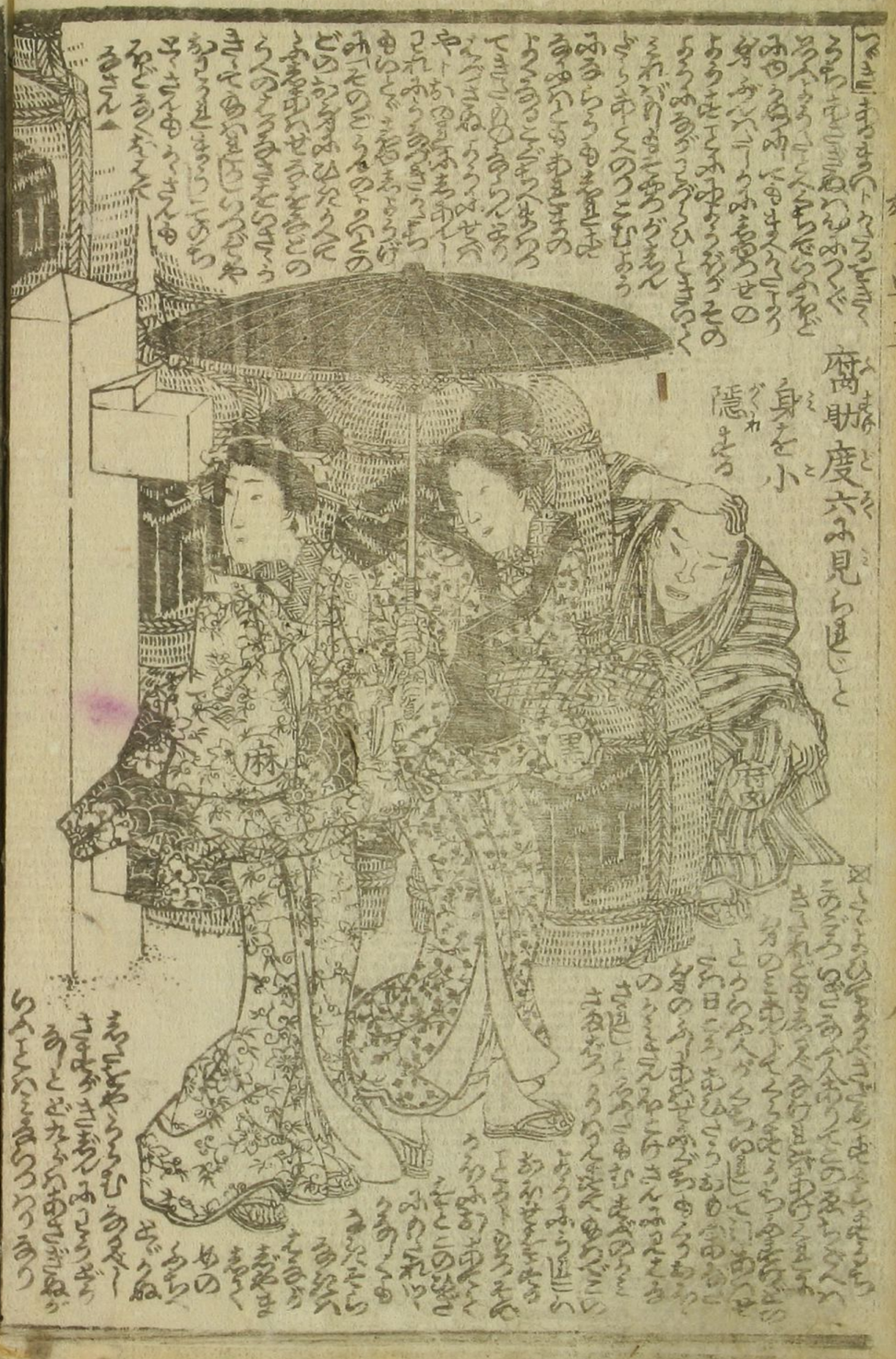
麻
九

荷
四編



麻郎九度
衣を
抱く
妾宅を
造る
図

腐助度六み見られじと身を小隠さる



つゞき
浦作古郷へ
立帰
浦
巻
渚

神奇痛湯
御用藥所 信州上田 東山堂
せんきのゆ
本家 實母散
さんやくさんとうのうとうひらき
七ふくぎ島飾譚
古来本所吉傳の怪談奇聞と採録民
作者の精忠當年の傑作
実に通俗疾落の世話と
御覧のとおり
包 四十八銅
包 廿四銅

精真作
國貞画
京傳
五篇亭

同郷の庄屋農人等浦作ゞ舎ゝ来訪帰國を祝して戻る体

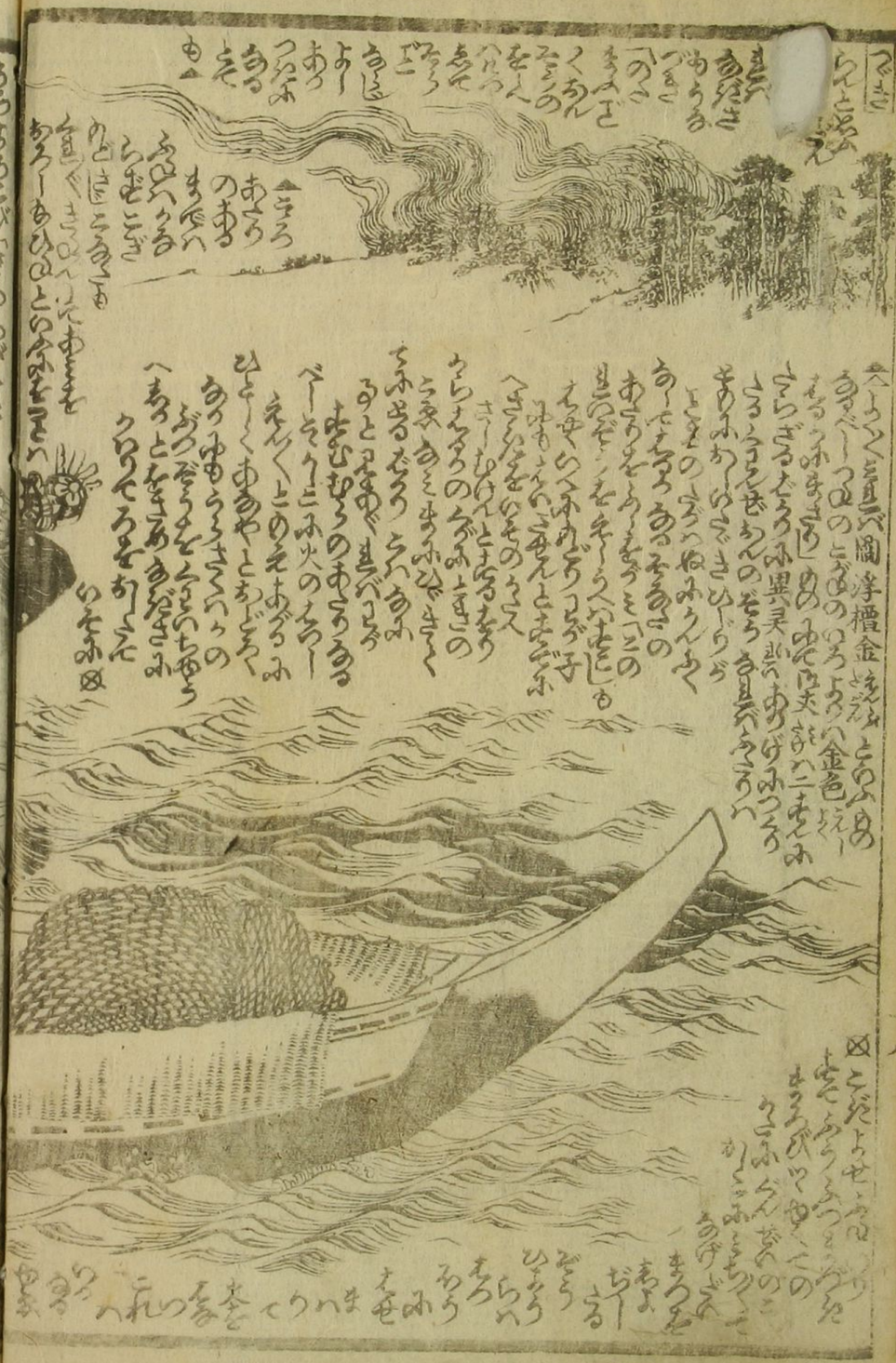
松
清

栗
浦

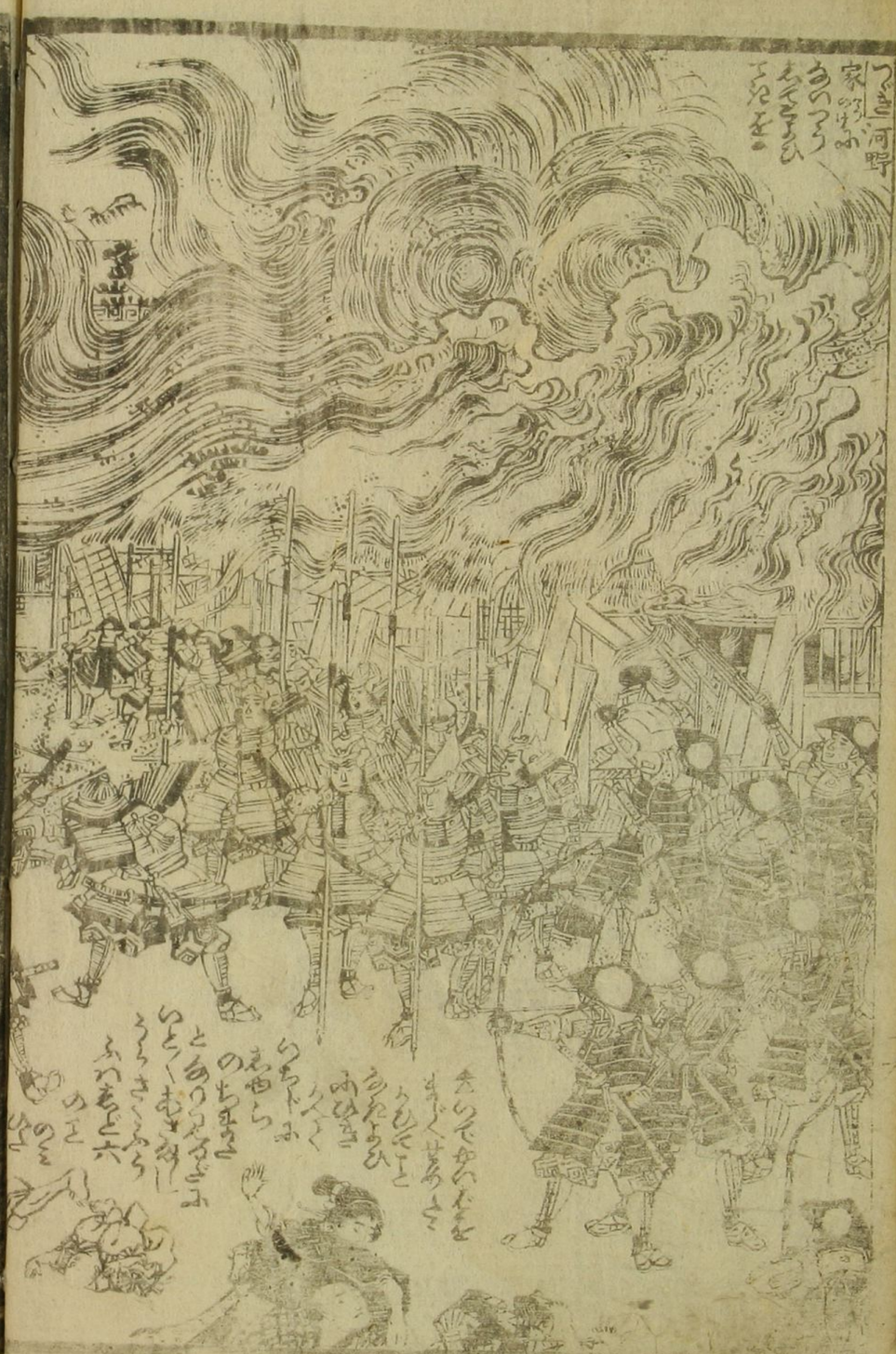
浦
志
漂

東海道五十三次
車
志
甫

渚
浦



浦
清



元治二年乙丑陽春開板標目

室町源氏胡蝶卷 五編 八冊 國貞画

新編九尾傳 為永春水作 歌川国貞画

俗情談戀唄倉 三編 如皐作 四編 國貞画

重藤妙々車 十八編 種彦作 十九編 國貞画

薄傾幻日記 十三編 春水作 十四編 國貞画

地本双紙問屋

全十冊 彫板

六編上
仲題曲五周堂

童謡妙くゝ車茅六集

上冊柳下亭種員作

一壽齋國貞畫

戊午新鐫

紅英堂精製

今時專世間ふ紙牌トと号一品ありて煎餅昆布花簪貝売いのふも更なり
万作豆や齒磨の袋ふまで納て鬻ぐ已此巻を作ふ至ゝ何様編述のう
可善哉と迷惑ものあり也ゝ彼流行の東西ふ倣ひ獨叢を抽て決定
たりやと坐右ふ重ゝ書籍の中ゝ一冊抜取開て見れば鶴の脛長しとい
是を斷ば憂なんと世人も知通文句兜軍記の三の口をえつ扨熟惟此琴書ふ
も岩永とつふ姦曲の同勒があるけれく重忠の仁智も一際勝てつんぬらと思ふ
もとゝゝ妖魔と号し怪僧ふ車聖の對敵行力爭法競も何とせへい方作
脚色はよも甘くとも只管佳評が受ゝきて齒磨ゝゝ條をもゝ花釵のゝ
ゝ重組ゝゝとも貴慮的嗣編を召ゝ程ゝらば録主いさゝよゝゝんぶと胸裏に
ゝさつゝゝと割て序文にあらなべ辻トふる貝ふまゝ髣髴ゝも

安政戊午華歳　三六　柳下亭種員

魔王廟
盜長魔度六
魔度六が妖術
毒龍を現出せ

妙之章六
観音大士の霊像災害を消除したまふ
良民補作
節婦渚

妖魔道人ハ邪法悪鬼を現出ス

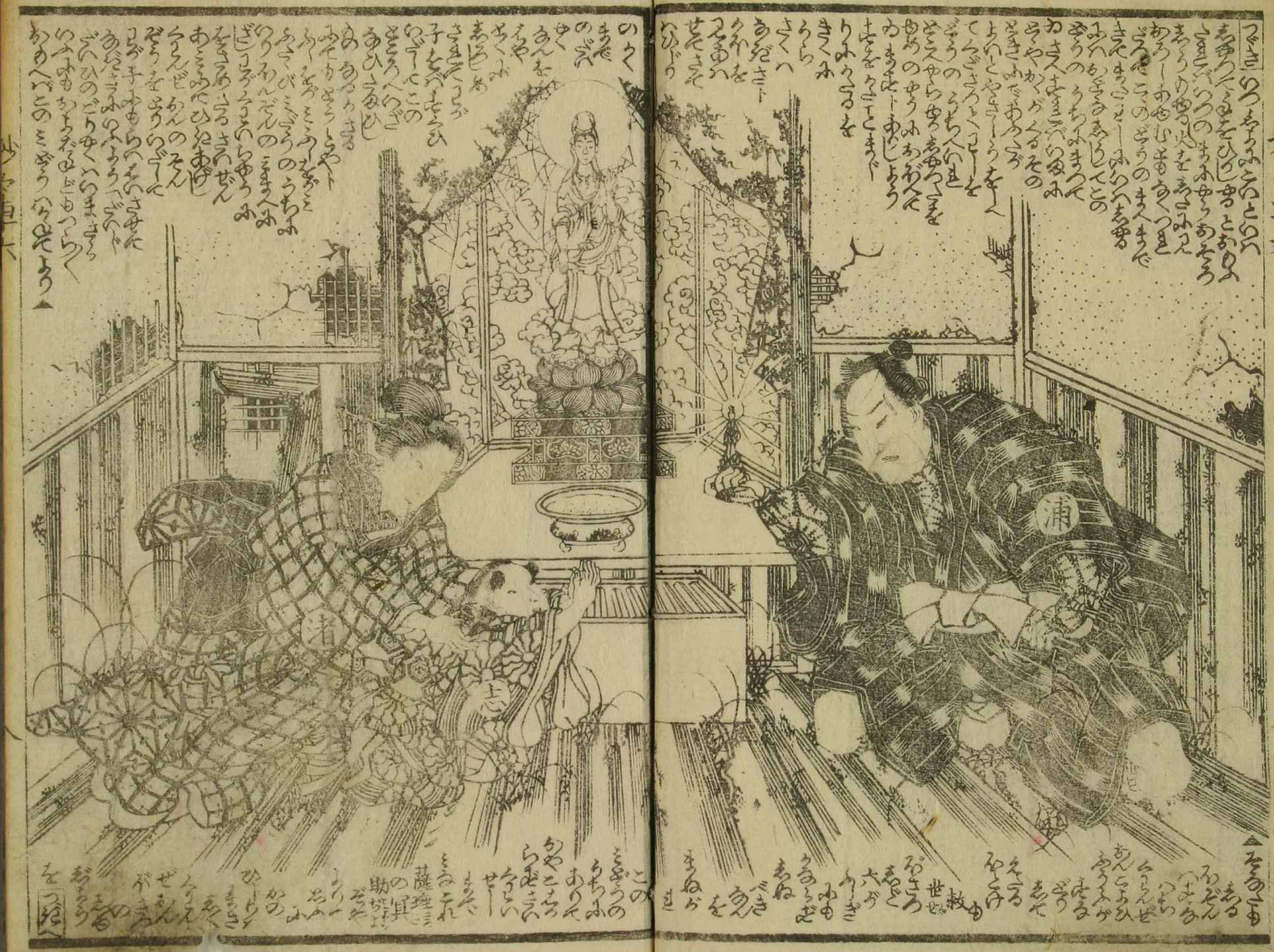
孝子志度六

妖魔道人

▲火をさがしてこゞむらより一里ばかりあなたのくさみあるところをさぐるにやくふおきのそらのさぐるちからくのまでさゝゆみあるあり月ゞげあみさちもろいをふるひゝこのあわふるのあいこのあわさえもえぎのうえのみぎはいとこのこえぬはとたのえぐひまゝ

二の巻へつづく

浦
清



つぎ　のつもりのことのハ
ちゆうくらをひじ者とあり
くまでいつのまゝゆうあそう
まうりのゆうべをまさみこ
あろーゆめむまゆくつま
ごろこのごうのまえまで
きこまさこーゆのハちゆ
みハもさみまうしてこの
ぞうのうちゆまつて
かさくまきでいるゆ
そやかくがくるその
ときゆであろくろ
よいとやさーうをく
てくごさろくこーを
ごうのうちくハま
そこやらゆろあつこを
ゆあのゆうゆあろゆく
ゆまこートあじようう
ようをうさこまで
りゆうくるを
きくゆ
うらう
さくハ
あるさト
くゆを
こゆあハ
ばこさそ
いひどう

救世観音

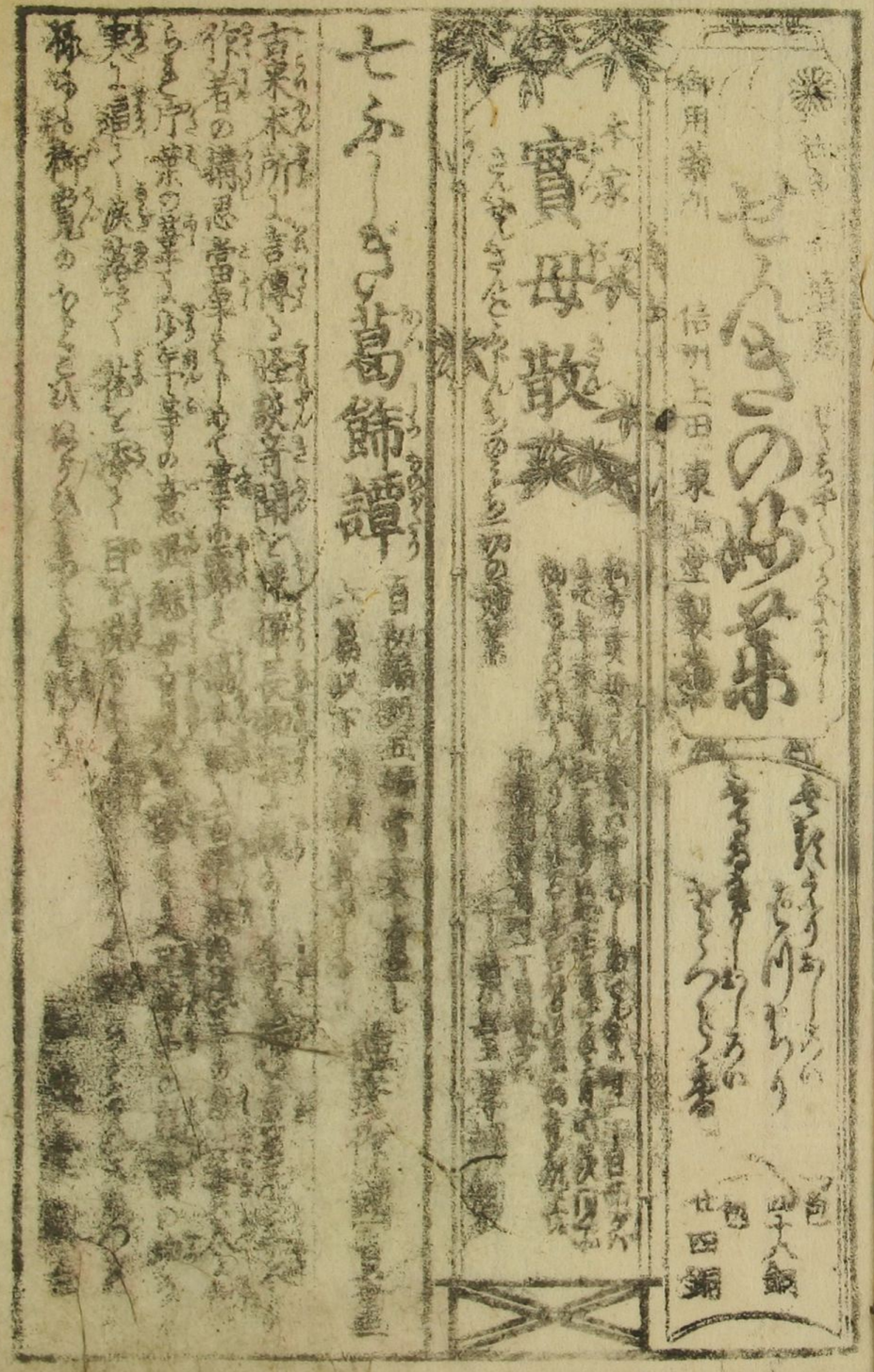
ちぞのこゆ
ちるぞん
ゆよゆ
ゆハい
ゆんこうゆ
あうふげ
ゆるゆ
ぞうゆ
ゆハ
ゆくゆ
ゆうゆ
ゆうゆ
ゆう

渚
浦
志

切

麻衣

種員作國貞画
切
此面ハ切平ゲ旅店に立置る。


七ふしぎ葛飾譚
實母散

東
猩真作
國真重
江英堂
壽樣
六編下

井手
南仙子
大字
えいりう
壽梓

つゝ逸
うた
妙

やうこの
あゆ
ふるかた
板本
ろう
武夫重

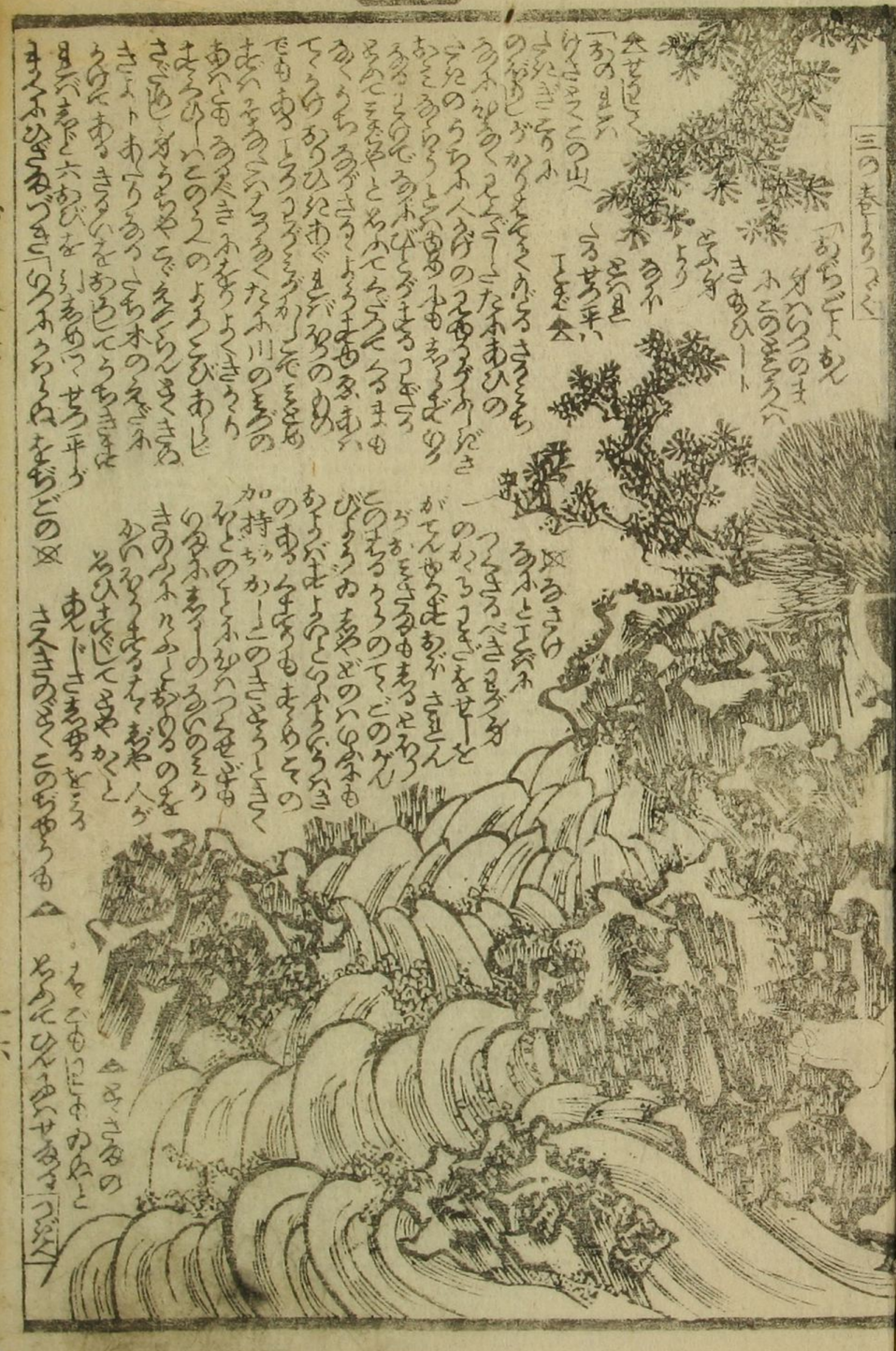
車

六
下乃ゝ中ル

つゞき
浦
者

つゞき

切平ゞ厚情浦作親子と志渡ふ住居さまる



切
志

つづき

麻衣度六ゐ艶書をおくる
支八自巻中ゐ在り

変
度

種員作

國貞画

元治二年乙丑陽春開板標目

室町源氏胡蝶巻　五編　名馬切れ

新編九尾傳　鳥永春水作　歌川国貞画

傾城情談感睦倉　三編　如泉作　四編　国貞画

童謡妙々車　十八編　種彦作　十九編　国貞画

薄傾幻日記　十三編　春水作　十四編　国貞画

地本双紙問屋　蔦屋吉蔵板